

第102回例会

「年齢」から言語教育を問い直す

—日本語教育とエイジズム、年齢性との関連から—

■ 話題提供者 ■

吉井雄樹さん(関西学院大学大学院)

■ 日時 ■

2025年5月10日(土) 13:00~15:00(日本時間)

■ オンライン(Zoom)開催 ■

[お申し込み](#)



- ✿ 参加費無料
- ✿ 非会員の方もご参加になれます。

日本語学習者とは「何歳」でしょうか。「人種」やエスニシティ、ジェンダーの視点から言語教育を問い直す試みがみられるようになりました。一方で、「年齢」の視点から問い直されることはあまりなかったのではないのでしょうか。

年齢に基づく関係性は、固定的な「教師—学生」関係につながることも考えられます。そのため、「日本語学習者を社会的な存在として捉える」言語教育観を本来の意味で達成するための障壁になることも考えられます。

そこで、本例会では、日本語教育を事例に「年齢」の視点から言語教育に対して問題提起を行い、みなさんと一緒に批判的に内省し、今後の言語教育を考える機会を提供したいと考えています。一歩立ち止まって考えてみると、「年齢」には“不思議なこと”がたくさんあります。それは社会のなかで何らかの「常識的な」想定があり、それが年齢に関連する矛盾を見えなくするためだと思います。そのような「常識的な」想定を一緒に見つめ直し、言語教育の実践を見直す機会にできればと思います。

お問い合わせ: 言語文化教育研究学会企画委員会 (project@alce.jp)